様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２７ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７００５２

研究課題名（和文）王畿の良知心学と明末の講学活動に関する発展的研究

研究課題名（英文）Advanced Study of the Wang Ji's Philosophy of Innate Knowledge (liang-zhi) and Activity of Lecture Gatherings(jing-xue)in the late Ming

研究代表者
小路口　聡（SHOJIGUCHI, SATOSHI）

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：３０２１６１６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：明代中晩期における陽明後学の講学活動の実態を明らかにするために、王畿の『龍溪王先生會語』全６巻の訳注を作成した。文献の精読とともに、現地調査を行うことによって、王畿の良知心学と、その哲学的実践として講学活動との緊密な連関性を明らかにし、あわせて、王畿を中心とした、明代中晩期の江南地域（安徽省南部・江蘇省南部・浙江省北部）における士大夫の講学活動をベースにした、「知」のネットワークの一端を立体的に描き出すことができた。

研究成果の概要（英文）：In order to elucidate the status of activity of lecture gatherings (jing-xue) of thinkers after Wang Yang-ming during the latter half of the Ming dynasty, we have completed the translation and annotation of all six volumes of "Long-xi Wang Xiangsheg Huiyu" written by Wang Ji. Through close reading of relevant literature and field surveys, we have elucidated the relationship between the philosophy of innate knowledge (liang-zhi) of Wang Ji and the close relationship between the lecture gatherings as a philosophical practice. In addition, while placing a focus on Wang Ji, we succeeded in providing a multi-faceted description of the network of knowledge (zhi) based the activity of lecture gatherings of scholar-officials (shi-dafu) in the Jiangnan region (the southern part of Anhui Province, southern part of Jiangsu Province, and northern part of Zhejiang Province) during the latter half of the Ming dynasty.

研究分野：中国哲学

キーワード：王畿　陽明学　良知心学　講学活動　龍溪会語　陽明後学　講会

１．研究開始当初の背景

本研究「王畿の良知心学と明末の講学活動に関する発展的研究」は、平成 21 年度から平成 23 年度までの期間、交付が認められた「王畿の良知心学と明末の講学活動に関する基礎的研究」（課題番号:21520051　研究代表者：小路口聡。以下、「基礎的研究」と略）を、更に発展的に継承するものである。

本研究の第一の課題は、前回の「基礎的研究」を継続するかたちで、王畿の『龍渓王先生会語』全６巻の訳注を完成させることにある。すでに、これまで全６巻中、巻４までは訳出し終えて、その成果を 12 回に渡って、学術雑誌に掲載してきた。その経験を活かし、本研究でも、前回同様、研究会（読書会）を輪読形式で、年４回行い、その成果を、随時、学術雑誌に掲載していく。

また、前回の「基礎的研究」において、銭明教授（浙江省社会科学院研究員）を案内役に、浙江省の杭州・紹興・寧波を中心に、天真書院・萬松書院・陽明洞・王府・慈湖など、王畿の講学活動ゆかりの書院や史跡をめぐる実地調査を行ってきた。今回も、前回の調査で培った経験と人脈をもとに、前回、調査しきれなかった、王畿が活発に講学活動を行った安徽省南部、及び、江西省北部地域を中心に実地調査を行う。

２．研究の目的

１「研究開始当初の背景」でも述べたように、本研究は、前回の「基礎的研究」を発展的に継承するものである。それゆえ、その研究目的もまた「基礎的研究」で掲げた目的を継承するものである。その要点をまとめるならば、以下の通りである。

本研究は、中純夫氏の優れた研究業績である「王畿の講学活動」（『富山大学人文学部紀要』第 26 巻，1997）を踏まえつつ、更には、その後、相継いで発表された、佐野公治「明代嘉靖年間の講学活動――陽明学派の講学――」（『陽明学』王心斎特集号, 2004）、呉震著『明代知識界講学活動 1522－1602』（學林出版社　2003）や陳時龍『明代中晩期講学運動（1522-1626）』（復旦大學出版社, 2005）、呂妙芬『陽明学士人社群――歴史、思想与実践――』（新星出版社，2006）などの優れた業績を参照し、明代中晩期の陽明後学たちの講学活動の研究を、その地域性・知識人ネットワークに着目しながら、さらに深化・発展させることを目指す。すなわち、個々の講会における講学活動に即しつつ、王畿の良知心学の特色と、その歴史的・哲学的意義を明らかにし、そして、良知心学の哲学的実践として講学活動、そして、その現場としての「講会」との緊密な連関性を明らかにしながら、併せて、『龍渓会語』を中心に、明代後半期の、江南地域（安徽省南部・江蘇省南部・浙江省北部）における士大夫の講学活動をベースにした、「知」のネットワークの一端を、できるだけ立体的に描き出すことを目指すものである。

その基礎的作業として、「基礎的研究」から続けている『龍渓会語』全６巻訳注の完成を目指すものである。

３．研究の方法

前回の「基礎的研究」の時と同様、(1)原典講読と(2)実地調査の二本立てで行う。

(1)「原典講読」については、「基礎的研究」を引き継ぐ事業の一環として、王畿『龍渓王先生会語』全６巻の訳注の完成を目指す。既に全６巻中の４巻まで読み終えているので、残る２巻の訳注稿を完成させる。その方法としては、「基礎的研究」の時と同様、年に４回の割合で、東洋大学を拠点に、代表者と分担者が、輪番で作成した『龍渓会語』の訳注稿を、全員で吟味検討するとともに、あわせて適時、各自の分担研究の成果報告と討論を行う。訳注については、随時、学術雑誌（『東洋古典学研究』と『白山中国学』）に掲載し、その抜き刷りを国内外の宋明思想研究者に配付する。

(2)「実地調査」については、講学活動の地域性を明らかにするために、王畿の講学活動の地を辿る実地調査を行う。講学では、議論の中身はもちろんのこととして、更には講学が行われた地域性、そこに集まってきた人々の顔ぶれも重要な要素を持っている。その地域性や人脈（知識人ネットワーク）についての理解を深めるため、別言すれば、その土地固有の「場所の記憶」（早坂）を掘り起こすためにも、実地調査は不可欠のものと考える。前回の「基礎的研究」では、浙江省の杭州・紹興・寧波を中心に回ったが、まだその一部にしか過ぎなかったので、今回は、初年度と次年度で、残りの安徽省・江西省を中心に王畿講学の地を訪れた。実地調査は、今回も、前回同様、銭明先生と申绪璐先生（杭州師範大学國學院講師）に、協力を仰いだ。また、現地の研究者とも、研究交流を行い、情報を得ていく。

また、最終年度には、研究成果の報告のため、中国から研究協力者の銭明先生と呉震先生（復旦大学哲学學院教授）を招聘し、国際シンポジウムを開催する。

４．研究成果

(1)『龍渓会語』訳注の完成：全６巻の訳注を完成。雑誌掲載論文を整理した電子テキストと原文電子データを、CD 化して、宋明思想研究者に配付した。（→(5)）

(2)現地調査：２回の実地調査を行った。2013

年には安徽省を、2014 年には江西省を訪れ、王畿講学ゆかりの史蹟を調査した。その研究成果については、５の［雑誌論文］の(6)・(11)の報告書を参照。

(3)国際交流：上記(2)の実地調査を行った際に、復旦大学哲学学院・浙江省社会科学院・杭州師範大学國學院・安徽大学儒学研究中心を訪れ、現地の研究者たちと研究交流を行った。

(4)国際シンポジウム開催：科研メンバーの５名の科研の成果報告（５の「学会発表」を参照）と研究協力者の申绪璐（杭州師範大学國學院）・伊香賀隆（佐賀大学特任研究員）・播本崇史（東洋大学非常勤講師）の研究発表と質疑応答を行った。また、特別講演として、中国から、呉震教授と銭明教授の２人の先生を招聘し、それぞれ「心学道統論――以‘顔子没而聖学亡’為中心」、「良知心學與中晚明的講會運動」と題した講演を行ってもらった。

(5)『龍渓会語』原文・訳注の電子化：上記(1)の訳注の電子データ（Word・一太郎文書）、及び、『龍渓会語』原文電子データ（同上）を CD にして、国内の宋明学研究者（42 名）に配付した。訳注の刊行に先だち、検索の便に資するための暫定版である。用語辞典としても、重宝がられている。

(6)ＨＰ開設：「『龍渓会語』を読む――王畿の良知心学と明代中晩期の講学活動――」を開設し、上記⑤の電子データをダウンロードできるようにした。コンテンツ：はじめに／『龍渓会語』を読むに当たって（吉田公平）／『龍渓王先生会語』訳注／王陽明と陽明後学の講学活動の足跡をたどる／訳注掲載誌／リンク集。

(7)論文集を作成中：④のシンポジウムの成果をまとめた論文集の刊行を予定している。執筆者は、５人のメンバーと５人の研究協力者（呉震・銭明・申绪璐・伊香賀隆・播本崇史）。再来年の２月に刊行予定。

(8) 2014 年、実地調査で安徽大学を訪れた際、儒学研究中心主任の解光宇教授より、韓夢鵬撰『新安理學先覺會言』（民国安徽通志館伝抄本）第 1 巻の筆写本のコピーを拝領した。この本は貴重本で、現存するものは、安徽省博物館の民国時期安徽通志館に、手抄本のかたちで伝わる一冊のみということで、所謂「天下の孤本」である。徽州府における、王陽明講学の講会活動と良知心学の民間への伝播普及を知る上で、大変貴重な資料である。雑誌論文(1)は、この書籍の簡単な紹介と、その資料を一部利用して書き上げた論文である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　14 件）

(1) 小路口聡「王畿「蓬莱會籍申約」訳註――陽明門下の講会活動記録を読む（一）――」，『東洋思想文化』東洋大学文学部紀要第 69 集（東洋思想文化学科篇Ⅲ，2016.3.，1～52 頁，査読無

(2) 吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其の二十二」，『白山中国学』通巻 22 号，2016.3.，65～87 頁，査読有

(3) 吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其の二十一」，『白山中国学』通巻 22 号，2016.3.，29～64 頁，査読有

(4) 吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其の二十」，『東洋古典學研究』第 40 集，2015.10.，51～78 頁，査読有

(5) 吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十九」，『白山中国学』通巻 21 号，2015.3.，35～65 頁，査読有

(6) 伊香賀隆・播本崇史「江西省王畿講学関係地実地調査報告」，『白山中国学』通巻 21 号，2015.3.，69～90 頁，査読有

(7) 吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十八」，『東洋古典學研究』第 38 集，2014.12.，73～92 頁，査読有

(8) 吉鶴成久章「中国近世の書院と宋明理学―「講学」という学問のかたち―」，小南一郎編『学問のかたち―もう一つ

の中国思想史－』,汲古書院 , 2014.8. , 149～175 頁，査読有
(9) 吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十七」，『東洋古典學研究』第 37 集，2014.5. ，57～90 頁，査読有
(10)吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十六」，『白山中国学』通巻 20 号，2014.1. ，29～60 頁，査読有
(11)伊香賀隆・播本崇史「安徽省王畿講学関係地実地調査報告」，『白山中国学』通巻 20 号 ，2014.1.，59～89 頁，査読有
(12)吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十五」，『東洋古典學研究』第 36 集，2013.10. ，147～178 頁，査読有
(13)吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十四」，『東洋古典學研究』第 35 集，2013.5. ，143～164 頁，査読有
(14)吉田公平・小路口聡・早坂俊廣・鶴成久章・内田健太「王畿『龍渓王先生会語』訳注　其十三」，『白山中国学』通巻 19 号，2013.1. ，　1～30 頁，査読有

〔学会発表〕（計　５件）

(1) 小路口聡「王畿の良知心学と講学活動――「交脩の益」について――」，科研成果発表国際シンポジウム「王畿の良知心学と明末の講学活動」，2015 年 8 月 23 日，東洋大学６号館 6310 教室
(2) 吉田公平「日本における王龍渓」（同上）
(3) 早坂俊廣「語らない周夢秀を語る――王畿と嵊県の周氏――」（同上）
(4) 鶴成久章「安徽における王畿の講学活動について」（同上）
(5) 内田健太「〈唐宋派〉と公安派詩学」（同上）

〔図書〕（計０件）

〔その他〕
ホームページ
「『龍渓会語』を読む――王畿の良知心学と明代中晩期の講学活動――」
https://sites.google.com/site/longxiwangxianshenghuiyu/biao-zhi

６．研究組織
(1)研究代表者
小路口　聡（SHOJIGUCHI　SATOSHI）
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：３０２１６１６３

(2)研究分担者
吉田　公平（YOSHIDA　KOUHEI）
東洋大学・国際哲学研究センター・客員研究員
研究者番号：７００３６９７９

早坂　俊廣（HAYASAKA　TOSHIHIRO）
信州大学・人文学部・教授
研究者番号：１０２５９９６３

鶴成　久章（TSURUNARI　HISAAKI）
福岡教育大学・教育学部・教授
研究者番号：２０２９４８４５

内田　健太（UCHIDA　KENTA）
岐阜聖徳学園大学・教育学部・准教授
研究者番号：５０５３４６６６